

「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 4 年 4 月 15 日

事業名称		高齢者見守りぼっくす事業費 [高齢者見守りぼっくす事業]										
予算科目	款	3	民生費	項	1	社会福祉費	目	3	老人福祉費	事業番号	14	
事業の種別	☐ 市単独 ☒ 補助対象 ☐ 市が実施することが法律等で義務付けられているもの(市の上乗せあり)											
担当部署・課長名	地域包括ケア推進（高齢介護）課					高齢者支援		係	課長名			石嶋 洋平
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。								施策番号	2 - 2			
【施策名】 高齢者保健福祉の推進								総合計画書 (ページ)	51			
1 この仕事の目的	① 誰（何）を対象にしていますか。					① ①の対象数や量を、あらわすもの（対象指標）						
	高齢者見守りぼっくすの担当区域内の ①ひとり暮らし高齢者、②高齢者のみ世帯、③日中において独居の状態にある高齢者					平成3年4月1日現在（高齢者見守りぼっくすの担当区域内） → ①ひとり暮らし高齢者世帯数、②高齢者のみ世帯数、③日中において独居の状態にある高齢者世帯数						
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]					② ②の状態になった数・量をあらわすもの（成果指標）						
	高齢者の生活実態の把握、相談業務、緊急時の対応等、必要な支援を行うことにより、高齢者の在宅生活の安心を確保する。					→ ①見守り対象者名簿登録人数（年度末時点） ②見守り活動実施延べ件数 ③相談延べ件数 ④救急代理通報システム（民間緊急通報システム）設置世帯数						
2 指標の推移	③ そのために何をしましたか。					③ ③をどのくらい行いましたか（活動指標）						
	高齢者ほっと支援センターを運営する社会福祉法人又は医療法人に委託して、事業を実施している。見守りぼっくす相談員が、高齢者の在宅生活の安心を確保するため、その生活実態の把握や関係機関との連携による高齢者の見守りを行い、緊急通報システムを活用した緊急時対応など必要な支援を行うとともに、高齢者の相談を受けている。					→ ①見守り対象者名簿登録人数（年度末時点） ②見守り活動実施延べ件数 ③相談延べ件数 ④救急代理通報システム（民間緊急通報システム）設置世帯数（年度末時点）						
			単位	過去2年間の実績		当該年度		成果目標				
				平成31年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度目標	令和5年度目標				
3 経費	対象指標	①の数値	世帯	①6,279 ②4,798 ③不明	①6,481 ②4,833 ③不明	①6,702 ②4,860 ③不明						
	成果指標	②の数値	①②人 ③④件	①722人②5,828人 ③3,344件④234世帯	①701人②6,766人 ③3,102件④259世帯	①676人②7,051人 ③3,280件④272世帯						
	目 標	②の目標値	人	6,307	5,828	6,766						
	目標値設定の考え方											
	高齢者の在宅生活の安心の確保を図るため、見守り活動実施延べ件数の前年度実績を目標に設定した。											
3 経費	活動指標	③の数値	①②人 ③④件	①722人②5,828人 ③3,344件④234世帯	①701人②6,766人 ③3,102件④259世帯	①676人②7,051人 ③3,280件④272世帯						
	事業費（実績）		円	39,694,119	37,376,491	40,558,847	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費（再任用職員以外） 年間単価は、 8,250,000円 時間単価は、 4,200円 で計算してください。 【算出根拠】令和2年度決算数値 (退職手当組合負担金、共済費も含む。)					
	財源	一般財源	円	17,452,119	16,040,491	17,392,847						
		特定財源（国・都・他）	円	22,242,000	21,336,000	23,166,000						
		（うち受益者負担）	円	0	0	0						
	人件費（目安）	所要人数(再任用以外)	人	0.6	0.6	0.6						
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0						
職員人件費(再任用以外)		円	4,986,000	5,028,000	4,950,000							
職員人件費(再任用)		円	0	0	0							
事業費+人件費		円	44,680,119	42,404,491	45,508,847							
4 環境変化等	(1) 開始年度		平成25 年度									
	(2) 環境の変化 東京都の高齢者見守り相談窓口設置事業（旧シルバー交番設置事業）に基づき、平成25年4月から見守りぼっくす事業を開始。各ぼっくすには、常勤1名と非常勤1名を配置し、高齢者ほっと支援センターを運営している社会福祉法人又は社会医療法人財団に委託して事業実施している。高齢者の在宅生活の安心を確保するため、その生活実態の把握や関係機関との連携における高齢者の見守りを行い、救急通報システムを活用した民間緊急時対応など必要な支援を行うとともに、高齢者の相談を受けて、問題解決に当たることを目的としている。平成25年4月に「高齢者見守りぼっくす ならはし」を開設。平成26年4月に「高齢者見守りぼっくす しんぼり」を開設。平成27年4月に「高齢者見守りぼっくす なんがし」を開設し、市内全域において見守りぼっくす事業を展開している。当初は常勤相談員1名、非常勤事務職員1名の2名体制であったものを、東京都の実施要綱の改正に伴い、平成28年度から常勤相談員1名、非常勤相談員1名の2名体制としている。											

事業名称	高齢者見守りぼくす事業費 [高齢者見守りぼくす事業]			
担当部署・課長名	地域包括ケア推進（高齢介護）課	高齢者支援	係	課長名 石嶋 洋平

5 市民等の意見	この仕事に関して、令和3年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について 高齢者見守りぼくす事業における救急代理通報システム（民間緊急通報システム）への関心が高く、市民からの相談・問い合わせが多い。見守りぼくすが徐々に周知され、民生委員、自治会、介護予防等自主グループ、地域住民等からの情報提供や相談が増加傾向にある。また、事業が市民に少しずつ周知されてきたことで、アウトリーチ訪問も円滑に行えるようになってきている。			
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。（複数回答可）			
	☐ 取り組んだ	取組手法：		
	☒ 取り組まない	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）		
	(2)令和4年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点			
7 課題	(1)令和3年度に課題とした内容（「令和2年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記） 事前約束なしで訪問することにより、不審に思われることがあり、在宅していても対応してもらえないことがある。そのため、高齢者見守りぼくすの周知方法、訪問方法の検討が今後の課題である。			
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、令和3年度に実施したこと。 市報、ホームページ、高齢者見守りぼくす通信等により、見守りぼくす事業について周知を図った。			
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案） 事前約束なしで訪問することにより、不審に思われることがあり、在宅していても対応してもらえないことがある。そのため、高齢者見守りぼくすの周知方法、訪問方法の検討が今後の課題である。			
8	施策貢献状況（この仕事は、総合計画（基本計画）に掲げる課題の解決手段になっているか。）			
	施策名： 高齢者保健福祉の推進 ☒ なっている ☐ 環境の変化等により成果が減少している ☐ 類似の事業が他にあり改善の余地がある 事業名（ ）			
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など） ☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止 【取組内容】 徐々に見守りぼくす事業について市民に周知されつつあるが、まだ認知度が低いため、さらなるPR活動を行っていく。 見守りぼくす相談員とも協議しながら、地域の高齢者の実態把握の方法について検討していく。			
	(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等			
	福祉祭、長寿の集い等のイベントに参加し、広く市民にPRできる場の確保を図る。 見守りぼくす連絡会（市と見守りぼくすとの定例会）において、高齢者の実態把握方法について検討し、基準を作成する。			